

事例検討（グループワーク）

疾患名：パーキンソン病（ステージ3）

性別：男性 年齢：76歳

バイタル：血圧 96/48 脈拍 88

介護保険；要支援2（サービス利用なし）

病歴：5年前より歩きにくさを自覚。周りからも足を引きずる歩き方を指摘され大学病院を受診しパーキンソン病と診断。現在の処方薬になってから2か月に1回近隣の診療所で薬をもらっている。最近から右手の震えが出現、睡眠障害、便秘症状もあり外出機会が減っている。薬の効果がある間の基本動作は自立しているが、オフ時は見守りや介助を要する。内服後には気分不良（嘔吐）を訴えることもあり食事摂取量も少なくなっている。

ADL：寝具は布団、食事は昼間の座卓で摂食。床からの立ち上がりが難しくなり奥さんの介助を要する。トイレは洋式。自宅内の移動は家具を伝って歩くが、方向転換時に転倒回数が増えている。入浴はシャワーで行うが浴槽の縁に座って実施。夫婦二人暮らしで子供はおらず年金生活。

主訴：以前は薬を飲むと動きはよくなったが、最近はあまり薬の効果を感じないし、薬を飲むと吐き気がするからあまり飲みたくない、飲み忘れるときもある。運動すること自体は好きだが、家で転ぶことも増えているからあまり動かなくなっている。

家族より：寝言が多くなっている。急に起きて外で誰かが呼んでいるから見てきてと言うこともある。便秘が気になるのか、ご飯もあまり食べなくなっている。

服用薬：レボドパ/カルビドパ	100mg	2T	朝夕食後
エンタカポン	100mg	2T	朝夕食後
大黃甘草湯エキス顆粒	7.5g		夕食後

下記の内容についてグループの皆さんで検討してください。

・本日参加されているそれぞれの職種の観点から考える在宅支援の課題を1つ挙げ、それぞれの職種としてどのような関わりができるでしょうか。